



故郷は、遠きにありて想うもの、とも言われていますが、私は、生まれて直ぐ千里山に来たので、故郷は千里山、今も変わらず85年余り住み続けたことになりました。

85年のうち、記憶に残るのは、5歳位以後のこととなりませんが、その間見聞してきた千里山のこと、思い出として書いてみます。

一・千里山の風物詩

古い話は他人からのまた聞き、法律用語では伝聞と言いますが、大正末期からの話です。

1. アカシア

大正末期桃畑などがあつた土地が住宅地として開発され、噴水を中心として扇形の宅地造成が行われ、階段状に区画された宅地に家が建っていったようです。開発時期を1期、2期と称し、住居を特定するのに、例えば、「2期の森さん」等と呼んでいたのを覚えています(噴水前文化堂の御主人であつた藤木藤太郎氏の発言です)。

宅地造成されたまま、その土堤に誰が植えたかニセアカシアが生えて、それが季節には白い花を咲かせていました。ニセアカシアの幹には刺があり、私を含め悪童らは、刺を取り柄の部分を残して皮をむき刀とし、振り廻してチャンバラをしてました。後

年戦時中は、薪などとして利用するため伐採されました。

2. 桜並木

街路樹としては、道の両側に桜の木が植えられ、所々見事な桜並木があつたのを覚えてます。

千里山駅から第2噴水に上がる両側、ついこの間まで千里山キリスト教会に付設されていたシオンロッジの駐車場に紫光園という名称だつたと思うのですがアパートがあり、広い庭の桜とその前の道路の桜並木とが一体となつて見所の一つでした。方々の道路に植えられた桜も次第に老木となり、戦後、舗装された道路及び交通量の増大で殆ど枯れてしまつて残念です。

ただ、往時の桜の面影を伝える桜が2本あります。1本は、噴水から左(南)へ曲がつて坂を上がる途中の松村氏宅の前(以前はちさと食堂と言つて14回生辻本君の家)と、もう1本は高津氏宅の前(お稲荷さん、今では千里山神社の裏側の道沿いの邸宅、高津秀剛氏は11回生で阪急不動産の社長を勤められた)の2本が老残、氣息えんえんの状態で残つてます。

3. 旧千里山駅舎

造成された宅地への住宅建築には材木が必要で、その材木は、当時の北大阪電気鉄道を利用して駅

に運ばれたようです。

大正末期の千里山駅の駅舎は、「阪急電車駅めぐり(空から見た街と駅、京都線の巻)」に掲載されていますが、現在より北千里駅寄り、複線の中だけ西側即ち道路(府道)寄りであり、終点でした。駅プラットホームから道路に上がる部分が土堤になつていました。此処に沢山の材木が積み上げられていたとか。

当時の千里山の住人は、新婚夫婦が多く、新妻は会社勤めの御主人の帰りを、夏には浴衣姿で、積み上げられた材木の上でお喋りをしながら待ち、御主人が電車から降り立つや二人揃つて三々五々手を繋いで帰宅するという風景がみられたそうです。

13回生の美川君の親爺さんから聞いた話で、付け加えれば、当時の旦那さんは、この御婦人方を丸太楼のおかみさんと呼んでいたとのこと。

この古い駅舎も1970年大阪万博の際、千里山線が延伸されるに当たり取り壊され、線路は複線の巾だけ東側に移動され、空いた部分は埋め立てられて、阪急タクシーの営業所兼宿舍になつていました。現在、一般の駐車場として利用されています。

4. 千里山初

多くの住宅が建築されたが、水洗式トイレが設置されたのは、柿崎氏宅のみであり、当時水洗トイレ

設置にかかる費用で、新築住宅に一間が優に新設出来たとの話は、美川君の母上の弁です。

(編集部より 堀田暁生氏宅にも水洗トイレがあったそうです。本号掲載「生家の建物」参照)

5. 住宅地の住民

住民に軍人又は退役軍人が多かったのは、以前会誌17号に書いたとおりで、陸軍大将(私と美川君との幼稚園同窓の井上元哉君の祖父)、現役陸軍少佐(同級生の小田君の父上で、その自宅は現在の本会代表の片山章氏宅)、日支事変勃発と共に出征され、同級生も郷里へ帰ったと聞くが、消息は不明です。遊びに行つた私達の前で軍刀の手入れをされていたのを思い出します。

金子退役海軍少将(桜並木の項に出てきた松村宅の坂の上を右に上がった宅)がおられた。千二校卒業生のうち、陸軍幼年学校、陸軍士官学校、及び海軍兵学校へ多くの卒業生が入学された学年があり、軍人組と名付けられていた。

民間人では、安藤百福、この安藤宅の石垣の上の家が、藤田氏の実家であり、噴水前の元赤壁薬局の三軒上が筒井康隆氏の実家で、お父上は大阪天王寺動物園の園長をされていたと聞きます。

6. 貸農園

お稲荷さんの下にテニスコートがあつた点について

現在は鉄筋の校舎に建替えられているが、私共在学中は、新、旧木造2校舎と講堂だけで、それぞれが渡り廊下で結ばれていた。

新校舎と旧校舎を繋ぐ2階渡廊下に鐘が釣られていて、始業終業時、小使さんの中村さんが、1階で綱を引き、鐘を鳴らされていた。

校門を入つた左側が小使室で、大きな釜にお湯が沸いていて、昼食時、お茶汲み当番は菓缶を持ってお茶をもらいに行つてました。

講堂は板敷きでなくコンクリート打ち放しのままであつた。講堂で吹田市内小学校の剣道大会が開催されたとき、講堂が板敷でないので転倒して頭を打つことがないよう呉々も注意されたいと、剣道を指導されていた奥田先生が注意されていたのが記憶にある。何故コンクリートのままだったのか、今でも不思議である。

2. 奉安殿、国旗掲揚台

校舎の東、運動場を隔てた小高い丘の上に奉安殿と国旗掲揚台があつた。六年生の級長、副級長が、朝登校して国旗掲揚し、下校時降下させていたと思う。このときは、在校中の生徒は、直立不動の姿勢でこれを見守っていた。奉安殿の中に何が安置されていたか知らなかったが、多分勅語特に教育勅語でなかつたらうかと思つていた(会報17号で14回

ては、既に会誌に掲載されましたが、本通り(この頃はレッチウオース通りと呼ぶようですが)を上がりきつて春日町へ行く寸前を右に曲がつて100m位の左側に農園がありました。

地主が誰で、賃貸借関係がどうであつたかは不明ですが、多くの住民が各自2〜300坪もある土地の一面で農作業を楽しんでおられた時期がありました。

農園からんでの思い出を一つ。
13回生の弘末君がこの農園で遊んでいて、農園内に設置されていた用水池にはまり込んだ。用水池は深く且つ上がることが出来ない。彼の記憶では、水面上に空の太陽が差し込んでいた光景が思い浮かぶという。この時、西川さん(13回生月組)の母上が近くにおられ、とつさに帯を解いて池に投げ入れられ、彼はこれに縋つて地上に出ることが出来たということでした。これは、弘末君本人から直接聞いたので、間違いのない話です。

しかし、彼も故人となつてしまいました。

二、小学校

1. 校舎

割合いろんな形で会誌に記載があるので、あまりかかれていない一面です。

生阿部弘氏が19頁に奉安殿について記述されている。

祝祭日、講堂で校長先生(特に西田慶太郎校長)は、白手袋で勅語を押し戴き、厳かに拝読されるのである。我々生徒は頭を垂れ、神妙に聞き入るが、さて、終わつて一斉に頭を上げるのであるが、それと共に鼻水も一斉にすすり挙げるのでした。

拝読の前に鼻をかむようにと、担任の先生方から注意はあるのですが。

3. 学芸会

在学中、1年1回学芸会が開かれ、全校生徒並びに父兄が観劇されていた。自分の学年の演目は少し覚えていた。

1年 演目 桃太郎

出演者 桃太郎 美川州平、犬、猿、雉は不明 鬼 清水達夫、仲辻章

記憶しているのは、私の台詞は「アア痛い痛い、雉が目玉をつついた」です。

後で聞くと、清水君も「アア痛い痛い、猿が顔を引つ掻いた」だったそうです。

2年 演目 一寸法師

出演者 一寸法師 田中正(小さかった) 鬼 美川州平、仲辻章

私は悪童だったので、1、2年とも鬼です。

3年 演目 勇敢なる水兵

出演者 士官 清水達夫、

水兵 岡田秀才（声が大きい）

4、5年は軍事色豊かなもの

14回生で記憶にあるのは、

演目 お父さんの出征

出演者 お父さん 三分一克美君（お父さん
の背広がそのまま着れた）

これ以外には及川実氏（10回生）の良寛さんを演じたのが名演で、父兄の評判が非常に良かったと記憶しています。

4. 制服

確か、五年生の頃に制服が出来ました。

冬服は紺色の毛糸のセーターで、胸に男子はグレイ、女子は赤の二本線入りでした。父母の手作りという事で、毛糸編みの講習が学校で行われ、私の母も講習に行ってます。合い服は、当時流行の国防色（黄草色）のジャンパーでした。

千二校の制服に真似て、千一校も胸にグレイの巾広の横線を一本入れて制定していましたが、少し野暮ったい感じです。

戦時下で次第に衣類が統制となり、不自由で何時のまにか廃止されました。

5. 神社清掃

4年生頃、佐井寺の伊弉諾神社へ竹箒を持って清掃に出掛けてました。少し記憶は曖昧ですが、帰途、遠くで地鳴りのような爆発音が聞こえるので何事かと不審に思ったのです。

後日、枚方、禁野の陸軍火薬庫の爆発と分かりましたが、当時は軍の機密で詳しい報道もなく、現在も文献として直ぐ見つけることは困難です。戦時中の民間情報の一コマです。思い出は尽きないのですが、これ位で終わります。

拙文は、平成25年9月27日東京千里山会でのスピーチに加筆したものです。